

土浦二高 だより

平成26年7月27日(日)から7月31日(木)に第38回全国高等学校総合文化祭「いばらき総文」が開催されました。



音楽部門・合唱部門事務局、日本音楽部門事務局として、同窓会の皆様の応援もあり、無事大役を果たすことができました。



総合開会式でも活躍



スタッフとしても土浦二高生活

いばらき総文を終えて

音楽部会事務局 合唱部事務局

吉水 淳子

文化祭のインターハイとも言われる全国高等学校総合文化祭が初めて茨城県で開催されました。私は音楽部会の事務局長と合唱部会の事務局長を兼任しており茨城県内の現場の先生方、茨城県の行政の方々、茨城県高等学校文化連盟、そして全国の参加校との連携に日々追われる毎日となりました。おびただしい電話の数、Fax、そして資料作成に对应できなかったのは、土浦二高の先生方と事務職の方々の温かな理解と協力があった事で、土浦二高を拠点として運営に携わる他校の先生方が数多く訪れても快く学校設備を貸していただけた事も有難い事でした。

主役である生徒達。土浦二高合唱部の生徒達が「いばらき総文」が大成功したと言っても過言ではない程、貢献しました。秋篠宮様をお迎えしての開会式の式典音楽、多くの感動を与えた劇音楽、そして開会式終了後のパレードでの飲料水配布。翌日よりひたすら市で開催されたマーチングバンドの大会運営の為に二日間、笑顔で活動し、代表生徒が秋篠宮佳子様のご説明役を務めた事は大きく新聞にも報道されました。そして合唱部の大会二日間。全国実行委員長、副委員長は勿論の事全ての運営、そして自分達の合同ステージと積極的に動く姿がありました。総文開催中の五日間、嫌な顔を見せず笑顔で精一杯活動する生徒達を、私は誇らしく、その健気さに胸一杯になりました。又、大洗高校マーチングバンド部が二日間合唱の運営をしてくださいました。茨城合同合唱団はこの総文の為に委嘱作品を依頼し素晴らしい指揮者、ピアノリストの元、180名の県内の高校生、歌声を全国の皆さんに聴かせる事ができました。茨城の高校生の為の「合唱曲」が宝として残りました。この経験が生徒達の財産となると確信しています。土浦二高同窓会の皆様の応援のお陰で作品も全ての方々への感謝の思いで一杯です。

日本音楽部門事務局

田崎 曉美

7月27日につくば市で行われた総合開会式に始まり7月31日までの5日間、茨城県各地域を会場にして第38回全国高等学校総合文化祭が開催されました。5年をかけて計画・準備をしてきた「いばらき総文」がついに始まったのです。文化祭のインターハイとも言われるこの総文祭の開催地は毎年全国をまわり、文化部に所属する高校生の各県の代表が日頃の練習の成果を発表する場であり、企画・運営も高校生が中心になって行われます。

大会は23部門に分かれていますが、日本音楽部門については土浦二高校長が部会長を務めており、事務局としても運営を任せていました。「総文祭って何?」「茨城県で全国大会?」「高校生が?」「いつどこで何をやるの?」「茨城県というところで地震は大丈夫かという問い合わせも多く、当日雨は降らないか、熱中症で体調を壊さないか、必要物品は何か、予算内で運営できるか、スタッフは各係何人必要か?」考えなくても何が何かわからず毎日不安でしたが、この数年間、先催である福島・富山・長崎各県や専門部の力を借りて準備を進めてきました。

日本音楽部門は牛久市で行われ、管・三絃・尺八など日本の伝統的な楽器を用いた古曲から現代曲までさまざまな演奏を発表する部門であり、コンクールの形をとり審査の結果、上位校は東京国立劇場の夢の舞台で披露演奏ができるといいます。

土浦二高争曲部はまず佐和・取手聖徳高とともに「京人形」という華やかな曲で第一日目オーブニングを飾りました。さらに単独演奏で「潮音」を演奏しました。宮城道雄先生の大変難しいと言われる曲です。2年生と3年生が力を合わせてこの曲に挑戦し、精一杯悔いのない演奏ができたと思います。審査員の先生方からも好評をいただき生徒達は満足感一杯でした。また生徒実行委員会のメンバーに加わり、全国からたくさん的高校生を迎え、演奏に力を発揮してもらい、同時に茨城の魅力を感じてほしいと、1年生も含めて運営スタッフとしても走り回り気を遣い、充実した5日間を過ごしたようです。

見えるところ見えないところでのたくさんの関係者の準備がありました。緊張感の中でほとんどもうたため茶道部の生徒には呈茶を準備してもらい、全国の参加者の方に「いばらき総文・日本音楽部門」のお土産にと、繭を使った手作りストラップの作成を土浦二高の1年生全員が作成に協力してくれました。

練習がある中、多くの運動部の生徒達にスタッフとして一生懸命お手伝いをしてもらったことも大変ありがたく、思い出して胸が熱くなります。

たくさんの方々の高校生・教職員・地域の方々のご理解と協力で「いばらき総文」が成功に終わりました。尚、同窓会の皆さまには多くのご支援・ご声援をいただき大変感謝しております。この「いばらき総文」に関わることができたという貴重な体験が、高校生達のこれからの糧になっていくと信じています。今後、滋賀・広島・宮城と大会が続きますが、来年度以降は茨城県代表として土浦二高の争曲部が活躍できるように練習に力を入れ、今年度「いばらき総文」の舞台に立たせていただいた恩返しができるように思っております。ありがとうございました。



部活動

少林寺拳法部

私たち少林寺拳法部は顧問の原田先生、石川先生のご指導の下、外部コーチの小野先生を中心に現在、男子12名・女子8名で活動しています。毎年、関東・全国に出場しており、そこで結果を残すことを目標に日々練習に励んでいます。

少林寺拳法法というのは知名度があまり高くないかもしれませんが、他の武道とは違い身体と精神どちらも鍛えることができます。少林寺拳法では、礼儀を正し、人道を重んじ、人とのつながりを大切にしています。部活動はとても明るく楽しく、また時には厳しく、メリハリのある練習をしています。練習以外でもカレーパーティーや、お汁粉会などの恒例行事があり、部員みんなで協力して料理をします。ボランティア活動にも参加してきました。

これからも部員一同力を合わせて頑張っていきます。応援よろしくお願いします。



バレーボール部

私たちバレーボール部は二年生四人、一年生七人で高橋先生と斉藤先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。

人数は多くありませんが、一人一人が目的意識を持って練習に取り組んでいるので活気に溢れています。そのかいあって昨年のインターハイ予選では、地区大会優勝、県大会ベスト8という成績を残すことができました。また、昨年十一月に行われた春の高校バレー茨城県予選への出場も果たし、貴重な経験ができました。

『良い選手である前に、愛される人間であれ。』をモットーとし、日々の生活、行動からもみなさんに「バレー部応援したくなるな。」と思っただけのよう、心がけております。今後も精進していきまので、温かく見守ってください。



水泳部

私たち水泳部は種目水球に十二人、競泳に二人、高飛び込みに一人、そしてマネージャー三人で楽しく活動しています。夏は五十メートルの広々とした校内のプールで行い、冬は毎週室内プールをお借りして日々練習に励んでいます。

その結果、水球は関東大会出場、競泳は県大会出場、そして高飛びではインターハイ三位という結果を残すことができました。

水泳はまだマイナーなスポーツなので、知っている人はまだ多くはないと思います。なので、ぜひ水泳を経験してもらい、水泳の楽しさを実感してほしいです。

今年度はよりメンバーが増えることを願い、昨年度よりも良い結果が出るよう、努力していきたいと思っています。みなさんの応援宜しくお願いします。



全国第3位



女子サッカー部

私達女子サッカー部は顧問の大久保先生の熱いご指導の下、一年生八人、二年生八人で日々練習に励んでいます。女子サッカー部は二〇一一年に創部されました。他校と比べ経験が少なく入部してくるほどですが初心者です。そのため最初は上手くパスが通らずミスをすることも多々あります。しかし経験が少ない分、頭を使い、お互いに声をかけ合い、コミュニケーションを取ることでチームワークを高め、試合に勝つために努力しています。高校という枠にこだわらずクラブチームや時には近隣の中学校の男子サッカー部とも練習試合をしています。同級生はもちろん、先輩後輩の関係も良好でつながりを大切にしています。

私達はより一層練習に励み、関東大会出場を目指してこれからも頑張っていきます。今後共、あたたかい応援よろしくお願いします。



男子サッカー部

男子サッカー部です。一年生十六人、二年生二十一人の部員で、日々練習に励んでいます。練習は、全員で声を出して盛り上げ、全力で取り組んでいます。そして、この質の高い練習は、他の学校に負けていないと自信を持っています。昨年の選手権では、県大会一回戦敗退という、悔しい結果となりました。結果を残せるように、一人一人が高い意識を持ち、一生懸命がんばりますので、応援よろしく願っています。



書道部

私たち書道部は、一年生四人、二年生五人で楽しく活動しています。

普段の活動では、年間を通して行われる皆さんのコンクールや大会に出品しています。練習日は原則として、月・水・金ですが、コンクール等への出品作品製作時には全体練習日以外に個人的に自主練習をしています。

また、今年のあゆな祭では、二高初の書道パフォーマンスを披露しました。部員全員が一致団結し、一つの作品を仕上げることで、書道の楽しさや、達成感を得られました。そして、九月には土浦市内で行われた「まちなか元気市」でもパフォーマンスをやらせていただきました。こういった機会を与えてくださった方に感謝の気持ちをもち、これからもこのような活動に参加したいと思っています。

今後とも、土浦二高書道部に温かい応援よろしく願います。



美術部

私たち美術部は、顧問の植木先生、副顧問の海老沼先生のご指導のもと、一・二・三年生合わせて二十四名で日々部活動に励んでいます。また、一年間に一人約三作品を創り上げ、展示に向けて作品と向き合っています。

特に、年に一度の県展では全員が入選に向け切磋琢磨し、夏休み中ひたすら作品を仕上げています。昨年は二十四名中十三名が入選し、夏休み中の頑張りの結果へ繋がっていることを実感しています。

美術部の部員は一人一人個性豊かでも賑やかです。しかし、絵に集中しているときは筆を動かす音だけが聞こえます。なので私たち美術部はとてもけじめのある部活だと思います。

これからも部員一同作品にしっかりと向き合い、技術の向上に努めていきたいと思っています。

最後になりますが、平成二十六年全国高等学校総合文化祭茨城大会美術部への同窓会からの応援ありがとうございます。



平成26年度卒 櫻井菜月さん
いばらき総文2014
美術工芸部門全国作品展出品

生徒会

私たち生徒会役員は、生徒の皆さんがどうすれば笑顔で学校生活を送ることが出来るのかを常に考えながら活動しています。

土浦二高生徒会は9月に本部役員選挙を行い10月から翌年の9月までが任期となっています。日々の活動は月に一度発行している、生徒会会報「Ayunagaki」の作成、部活動の部費等の管理です。二高の大イベントであるあゆな祭やスポーツ大会の企画、運営も行っています。また、年度末には生徒会誌「軌跡」の発行も行っています。全生徒の中心となって活動することは、簡単なことではありませんが、土浦二高の伝統と歴史を大切に、私たちらしい新しい要素も織り交ぜながら、歴史の1ページを刻んでいきます。



*男女共学後の進路状況

年度	国公立大	私立大	合計	短大	専修学校	就職	卒業生数
平成9	36(5)	442(85)	478(90)	204(7)	69(9)	10	420
平成10	62(5)	546(88)	608(93)	123(19)	75(14)	6	415
平成11	65(9)	571(123)	636(132)	90(1)	61(4)	4	399
平成12	88(13)	453(63)	541(76)	63(2)	73(3)	2	400
平成13	105(14)	579(68)	684(82)	47(0)	38(0)	5	395
平成14	71(9)	498(73)	569(82)	36(2)	38(0)	9	360
平成15	65(12)	474(105)	539(117)	38(1)	53(4)	7	357
平成16	95(22)	558(125)	653(147)	34(1)	39(0)	1	316
平成17	84(10)	549(93)	633(103)	26(0)	33(1)	2	317
平成18	81(11)	551(72)	632(83)	18(1)	36(0)	2	318
平成19	85(15)	697(69)	782(84)	13(1)	23(0)	1	312
平成20	95(9)	552(52)	647(61)	9(0)	22(0)	4	319
平成21	68(8)	663(79)	731(87)	6(1)	28(0)	2	315
平成22	76(8)	569(69)	645(77)	6(0)	15(0)	0	312
平成23	94(13)	601(83)	695(96)	9(0)	21(0)	2	319
平成24	92(10)	733(85)	825(95)	6(0)	21(0)	1	314
平成25	106(10)	667(19)	773(29)	13(0)	6(0)	2	314
平成26	83(13)	672(47)	755(60)	13(0)	25(0)	1	313

①大学、短大及び専修学校欄は、合格者数の延べ人数を示し、()内は過年度卒を内数で示しています。

②平成17年度・22年度・24年度・25年度の国公立大学合格者数には、文部科学省所管外大学(防衛大学校)の合格者をそれぞれ1名、5名、1名、1名、3名含まれます。

本校での進路指導は、ほぼ全員が4年制大学進学を目指す中で、これからの変化の激しい社会をたくましく生きていくために、組織的・系統的に、

本校での進路指導は、ほぼ全員が4年制大学進学を目指す中で、これからの変化の激しい社会をたくましく生きていくために、組織的・系統的に、

現在、少子化の中で「大学全入」と「二極化」の受験状況は変わりませんが、センター試験に変わる「新テスト(到達度テスト)」導入を含め、大学を取り巻く状況は、これから数年さらに変化が激しそうです。また経済状況や震災後の影響もあり、理系指向や地元志向も強く表れています。本校でも、2年生からの文理分けて理系4クラスという状況

現在、少子化の中で「大学全入」と「二極化」の受験状況は変わりませんが、センター試験に変わる「新テスト(到達度テスト)」導入を含め、大学を取り巻く状況は、これから数年さらに変化が激しそうです。また経済状況や震災後の影響もあり、理系指向や地元志向も強く表れています。本校でも、2年生からの文理分けて理系4クラスという状況

平成6年度の県教委より男女共学推進校に指定を受け、男子生徒が入学してから20年が経過しました。昨年の創立110周年記念式典を経て、さらに土浦二高の充実度は高まり、部活動等の実績や大学進学実績も確実に向上しています。

近年の目標として、「夢探し!夢作り!!そして夢のゴールへ!!!」をスローガンに掲げ、110年の伝統と信頼を受け継ぎながらも未来に繋がる品格のある進学校になるように取り組んでいます。生徒は「知的好奇心や学習意欲を高めることで、自己探求や自己実現のために自ら課題を見つけて、その解決のために努力する」教員は「生徒が個々の能力を最大限に伸ばし、自己実現に努めることがで

的なキャリア教育を充実させ、職業観の育成・進路意識の高揚を第一に考えています。その中で1年生の時期を「自己理解期」、2年生の時期を「自己発展期」、3年生の時期を「自己実現期」として捉え、時期に応じた進路行事を経験することで、自己探求や自己実現を考える機会を作っています。

掲載の表は男女共学後から昨春までの進路状況です。合格者数では、国公立大学も私立大学も、近年特に安定度が増しています。特に平成25年度卒業生は、現役国公立合格者数が96名で、過去最多となりました。

また難関大学へ挑戦し、合格する生徒が増えていることもあげられます。過去5年で見ると、国公立大に関しては、東北大で合格者が続き、私立大学も、GMARCH(学習院・明治・青学・立教・中央・法政)への合格者は、確実に増加し、最難関校である早稲田・慶應・上智大にも20名を超える合格者が出ています。

以上が近年の本校生の進路状況についての主なものになります。最後にありますが、平成27年3月卒業生は、現在受験の真っ直中にあり健闘中(推薦で県立医療大へ県下2位の6名合格の朗報も届いています。)であります。後輩たちの進学状況等は、4月以降本校ホームページをご覧ください。幸いです。

(平成26年11月記)

進路関係

魅力と活力のある進学校への取り組み

進路指導主事 高須 一彦

